

畑かん営農情報

～大崎町で行った畑かん営農試験の情報です～

1. 実証課題名 キャベツにおける活着・生育促進効果並びにかん水方法の検討について

2. 目的 露地野菜のかん水方法並びにかん水器具の調査検討，キャベツの水利用効果確認

3. 実証実績 ①栽培実績 前作物名（さつまいも） 実証作物名（キャベツ）

区 分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
作付体制					○	△			×	—×		
水利用 (回数等)						3回						
作業内容						定植			収穫 開始	収穫 終了		

(凡例：○播種，△定植，×収穫)

②実証内容

- ア) 品種名 若者
- イ) 定植日 平成 17 年 9 月 17 日
- ウ) 収穫日 平成 17 年 12 月 10 日～平成 18 年 1 月 12 日
- エ) 作 式 畦幅 60 cm×株間 33 cm≒ 5,000 株／10a
- オ) かん水方法
 - a) 方 法 ろ過器，散水チューブ
 - b) 時期・量 平成 17 年 9 月 20 日～9 月 25 日までに 3 回× 10 m³

4. 収量調査

(10a 当たり)

区 分	収 量 (kg)					単価 (円/kg)	生 産 額 (円)	経 営 費 (円)	所 得 (円)
	6 玉	8 玉	10 玉	外	合計				
実証区	330	4,000	460		4,790	104	498,160	56,300	441,860
対照区	470	1,500	780		2,750	94	258,500	47,700	210,800
比 率	70%	267%	59%		174%	111%	193%	118%	210%

5. 考 察

実証区では，今年は散水チューブを活用した活着および生育促進効果を検証した。

収穫の途中ではあるものの，実証区は 479 ケースの収穫ができたのに対し，対照区では 275 ケースと，活着のバラツキと生育の遅れが出荷量に現れている。

これは，定植・生育期の降雨量が少なかったことと，出荷時期である 12 月の平均気温が平年より 3.2℃低かったことが原因と考えられる。



▲散水チューブにより活着および初期生育促進